

## 第2回 肝属川水系学識者懇談会 議事概要

日時：平成23年9月15日（木） 13：00～15：30

場所：国土交通省大隅河川国道事務所会議室

出席：（委員） 疋田委員、山内委員、坂元委員、四宮委員、丸野委員、隈元委員  
中山委員、泉委員  
（事務局） 国土交通省 大隅河川国道事務所

### 1. 議事

#### （1）第1回懇談会を踏まえた意見及び検討結果の報告・確認

・事務局より「第1回懇談会を踏まえた意見及び検討結果（資料-2）」について報告を行った。

（特段の意見なし）

#### （2）肝属川水系河川整備計画【原案】〈未定稿〉について

・事務局より「肝属川水系河川整備計画【原案】の概要（資料-3）」について説明を行った。

（主な意見等）

◎肝属川水系河川整備計画【原案】〈未定稿〉（以下、【原案】〈未定稿〉という）の9ページ2行目のところに“鹿屋市川西地区に船着場を表す「船塚」という地名がある”と書かれてあるが、「船塚」の地名は川西ではなく田崎町になるので、訂正をお願いしたい。川西には「船隈」という地名がある。

○ご指摘を踏まえ、確認した上で訂正したい。

◎場所場所によっていろんな掘削のしかたがあると思うが、代表的な例として、【原案】〈未定稿〉70ページのイメージ図のような平水位以下を掘削するような図を記載するのは適切ではないのではないか。このような掘り方をすると、流量が少ないときには浅く均一な水深で流れるような状況になることから、河川環境としては単調になる。平水位以下の低水路部は現況のまま残して、それより上の部分を掘削して流下能力を上げることが望ましく、これを河道掘削の基本としてもらいたい。

○河道掘削の際には、良好な水辺環境の保全・再生に配慮することを基本と考えており、ご指摘の趣旨を踏まえて、基本的な掘削イメージについては、平水位以下を掘削しないような図とすることにしたい。

◎資料-3の39ページに下谷川合流点の掘削のイメージ図があるが、先ほど言ったような平水位以上の掘削で対処できないのか。また、治水の観点から、左岸側が水当たりで洗掘傾向にあるため、流心を右岸寄りに移行させるためにも右岸側を掘削するとあるが、流心は河川の形状で決まっていることで、掘削により流心を変えることはできないのではないか。

○これまで、いろいろな掘削形状を検討してきたが、平水位以下まで掘削しないと必要河積が確保できず、これまでの堆積傾向や維持管理の面を考慮して、現時点ではこのような掘削形状が最適であると考えている。まずは、一番いいだろうという考え方で掘ってみて、モニタリングしてそれをフィードバックしながら管理していこうと考えている。

- ここは左岸側がかなり深掘れしていることから、このような形状で掘削したとしても、浅く均一な水深で流れるような状況にはならないのではないかと考えている。ただし、掘削により流心を右岸側に移行するというの言い過ぎという気がするので、このような表現は控えたい。
- ◎資料-3の32ページに朝日橋地点の正常流量が記載されているが、朝日橋の流量は非常に少ない。このようなところでも魚は生きていかなければならないので、少ない流量でも生息環境が維持できるように川底を2段階に掘り下げることが出来ないだろうか。
- 河床が平坦なところでは、一部を深くして魚類が移動できるような河床づくりは当然あると考えており、河道掘削にあたっては、良好な水辺環境の保全・再生に配慮しながら実施していきたい。
- ◎資料-3の30ページの流量配分図の中で、上段が基本高水【計画高水】流量、下段が整備計画目標流量となっているが、この違いは何か。また、整備計画目標流量の設定という表があり、例えば朝日橋の場合、実績流量1位が230m<sup>3</sup>/s、雨量確率によるW=1/30規模流量が140m<sup>3</sup>/sというのがあるが、230m<sup>3</sup>/sは分水路が無い状態での朝日橋のところの本川の流量と考えて良いのか。
- 最終的にはこの流量で流すというのが上段の( )書きの数字であり、朝日橋については200m<sup>3</sup>/s、今後20~30年の当面の目標とする流量が下段の数字で、朝日橋では140m<sup>3</sup>/sでいきたいと考えている。朝日橋実績の230 m<sup>3</sup>/sは、分水路が無い状態での本川の実績流量である。
- ◎肝属川本川と鹿屋分水路について、洪水のときには分水路の方へ優先的に水が流れていくような手段で管理されているのか。鹿屋分水路の分流堰は可動堰ではないが、自動的に分流量が調整されるのか。
- 今回の整備計画では、本川を140m<sup>3</sup>/s、分水路の方を200m<sup>3</sup>/sとすることで計画している。現在鹿屋分水路の能力が200m<sup>3</sup>/sあるので、それを精一杯使って残りの分を本川の方で流すという計画である。分流堰は角落とし構造となっており、堰板により分派量を調整することが可能である。
- ◎資料-3の47ページの串良川上流部の洪水対策イメージ図について、左岸側は築堤で守られるが右岸側は堤防がなく溢れていくようなイメージに見える。
- 右岸側は山付きになっていて、洪水により溢れても範囲が限られ、また被害に遭うところもないことから、築堤は行わないものとしている。ご指摘のとおり、イメージ図では山付きになっていることがわからないので、修正する。
- ◎串良川上流部では、堤防の代わりとしてマダケが植えられおり、景観的にも非常にいいと思うが、堤防への影響を考慮してこれを全部切ってしまう計画となっている。工事のときに切るのは仕方ないとしても、虫を食べるカワムツ等にとってこのような茂みがあるのは好ましいことなので、なんとか残す方法はないのか。
- ◎資料-3の51ページの始良川の洪水対策について、高水敷を切り下げて今現在の環境はあまり変わらないようする掘削案は非常にいいと思うが、ここにもメダケが出てきて、これを切る計画としている。工事の時に切ってしまうのは構わないが、ちょっと根を残してしばらくしたらまた元に戻るといったような配慮も入れていいのではないかと。

○堤体に影響するところや工事で必要な範囲では伐開しなければならないが、実施にあたっては詳細に検討するとともに、工事後の樹木管理についても検討していきたい。

◎水質分析の試料は、何時にサンプリングしているのか。

○サンプリングする場所により時間はずれるが、基本的に家庭雑排水の影響が顕著に出てくるような特段な時間帯は避けており、概ね 10 時くらいである。

◎3号排水路の近くにひも状の接触酸化材を用いた浄化施設があるが、これを設置して稼働させたことで水質が浄化され良くなったということはあったのか。

○現在モニタリング中であり、下流の環境基準地点である河原田橋にダイレクトに効いているかどうかは、まだ検証中である。来年までがモニタリング期間であるので、有効的な運用というのも含めて検討していきたい。

◎平成 22 年の BOD が小さくなったのは、降水量が多くて河川流量が多くなったことが要因の一つであろうが、その他にも清流ルネッサンスⅡでの取り組みのなかで、国交省の職員が現地に出向いて、一般の人たちに対して講習会等で説明をしているような努力がかなり効果を発揮しているのではないだろうか。

◎BOD を改善しようと思うと、川がただ平面的に流れていくのではなくて、空気を少し巻き込むようなせせらぎみみたいなものを設けることができるような河道の構造があった方がよい。せせらぎやそういう流れをせき止めるところがあったり、あるいは水がよどむところがあったりと自然の状態に近い状況をつくってあげることが、生物に対しても必要ではないかと思う。その辺のところをどうか取り入れて、改善をして頂きたい。

○空気を巻き込むような河道のつくり方というものを常に念頭に置きながら、河道掘削にあたっては、良好な水辺環境の保全・再生に配慮しながら実施していきたい。

・事務局より「河川整備（治水対策）の経済効果の考え方について（案）」説明を行った。  
（特段の意見なし）

### （3）関係住民への意見聴取方法についての報告

・事務局より「関係住民への意見聴取方法について（資料-4）」報告を行った。  
（特段の意見なし）

注）上記◎は委員の意見、○は事務局の発言